

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(1月26日～2月1日)

2021年2月3日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- ルカシェンコ大統領、習近平・中国国家主席と電話会談。(1/26)
- ルカシェンコ大統領、ヴァシチェンコ非常事態大臣を解任。(1/27)
- 2020年を通じてベラルーシ政府債務残高は130億ルーブル(29%)増加して、2021年1月1日時点で578億ルーブルに上り、GDP比37.3%となった。(1/29)

【ルカシェンコ大統領動静】

●政府高官人事。(())内は前役職。)

- ・ヴォリフォヴィチ氏(国防軍参謀本部長)を国家安全保障会議国家書記に任命。
- ・ゲラシモフ氏(国家統制委員会副委員長)を国家統制委員会委員長に任命。
- ・シュレイコ氏(ゴメリ州検査官)をブレスト州執行委員会委員長に任命。

(1/26 大統領公式ホームページ)

●習近平・中国国家主席と電話会談。

両者の協議要旨は以下の通り。

1 二国間関係概要

- ・両国の外交関係設立記念日を祝する。
- ・信頼たる全天候型戦略的パートナーシップと相互に利益のある協力のもと発展してきた両国の政治的関係は高い水準にある。
- ・戦略的パートナーであるベラルーシと中国は共に外憂に対抗する。ベラルーシは、重要な問題において中国への支持を表明する。

2 新型コロナウイルスについて

- ・油断してはならない。それゆえ、これまでの合意に従い、ベラルーシと中国は、最大限オープンであり、協力の用意がある。中国は、ベラルーシに自国製ワクチンを供給する用意があると確認する。

3 貿易関係について

- ・二国間貿易は成長しており、新型コロナの状況下に

においても貿易高の低下はなかった。一例として、ベラルーシ製農作物の中国市場への輸出が挙げられる。食糧と木材加工品が成長の中心にあると言える。

- ・中国では、2021年～2022年の間にベラルーシ企業が中国に供給できる製品の一覧作成作業を継続されている。また、貿易手続きの簡素化、輸出拡大の専門家グループが組成された。

- ・中国によるベラルーシのカリ肥料の買い付けの増加については、中国のパートナー企業が積極的に取り組む用意を示している。

4 ベラルーシ・中国共同産業特区「巨石」

- ・ベラルーシは伝統的に一帯一路の積極的参加国である。同産業特区において象徴となる協力を活性化し、中国のトップ企業・銀行のプレゼンスを拡大することは戦略的に重要である。

- ・国際協力拡大のため、2021年～2023年にかけて3年間のプログラムとして「ベラルーシと中国の地方の年」の宣言を提案する。

5 直接の二国間首脳会談

- ・新型コロナウイルスの状況がもう少し良くなったらすぐに二国間首脳会談が実施される予定である。

(1/26 大統領公式ホームページ)

●ヴァシチェンコ非常事態大臣を解任。

後任は指名されておらず、空席。

(1/27 大統領公式ホームページ)

●立法の完成に関する会議に出席。

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・昨年は、抗議の行進、国営企業でのストライキの呼び掛け、地下鉄の混乱、政権関係者への脅迫や暴力、国家情報機関のハッカー攻撃など多くのことが教訓となった。しかしこれは、我々が直面した問題を全て網羅したリストとはいえない。

・SNS やメッセンジャー経由で、違法活動の調整が行われ、ベラルーシ国内治安維持の力の信用を失墜する情報が流れた。

・治安部隊や国家組織は、我が国がお決まりのカラー革命の深淵に落ちないようにした。しかし、安堵してはならない。我々はロシア人からこのようなもの（抗議運動等）に対してどのように対応すべきか学ぶ必要があるだろう。

・他国で就労していた者が抗議運動に参加していた。つまり、新型コロナや国境閉鎖で失業していた者である。ロシアやポーランド、リトアニアやウクライナ等他国で捨てられた者である。

・近年、我が国の法制度は自由化の方向に進んでいた。しかし、法律は何らかの違法行為に適切に対処するだけでなく、起こりうる脅威を先んずる必要がある。

・新たな法案を作る際には、フランスやドイツ、ロシアなど他国の規準を我が国の法案に盛り込む必要があるだろう。そうすれば、だれも我々を批判しない。

(1/28 大統領公式ホームページ)

●ベラルーシ国立大学を訪問。

学生との対話におけるルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・主権国家ベラルーシをゼロから創り出しつつ、私はある意味であなた方をも育て上げた。

(1/29 大統領公式ホームページ)

●ラッポ国家国境委員会委員長と会談。

両者は、昨年の同委員会の活動や今年の国境警備の決定に関し、協議を実施した。

(2/1 大統領公式ホームページ)

●フディク天然資源・環境保護大臣と会談。

両者は、世界的な環境破壊やベラルーシにおける森林・湖等の自然環境の状況、天気予報システムの改善に関し協議した。

(2/1 大統領公式ホームページ)

【外交】

●ゴロフチェンコ首相、ミシュスチン露首相とモスクワで首脳会談を実施し、ロシア港経由での石油製品の輸送について協議。

(1/27 ベラパン通信)

●リヒテンシュタインが第三次対ベラルーシ EU 制裁(2020 年 12 月 17 日に発効)に参加を表明。

(1/27 ベラパン通信)

●マケイ外務大臣、記者会見

マケイ外務大臣の発言概要は以下の通り。

・ベラルーシにおいて接受されている外交団が、単に何らかの行動への参加を呼びかけただけではなく、自ら参加した。無論、我々はそれらの事実に対し、非常に厳しく反応せざるを得なかったし、今後も同様である。

・さらに、我々は、EU を代表する何名かの大使が、具体的な反ベラルーシ政権の情報及び投稿を拡散しているのを目にしている。我々はまだそれらの事実に対処していないが、我々は監視しており、この種の事実に対し具体的で厳しい評価をしていく。

・如何なる国の大使も、自分が代表する国と駐在する国、及び両国民の友好や協力を助長すべきであろう。もしそれを理解できず、反政権に向けられた一方的な方針をとるのであれば、そのような役職につくべきではない。

・ByPOL による音声記録(当館注:カルペンコフ内務省次官の声に似た、ベラルーシ抗議活動に対する治安部隊の対応に関する音声記録)はデマであり、フェイクニュースである。

・米国大使の着任、ならびに、新たなホワイトハウス

との建設的な相互協力に関心を有する。

(1/28 ベラパン通信)

●ジュリー・フィッシャー次期駐ベラルーシ米国大使、
2月1日から8日にかけて、欧州各都市を歴訪。

(2/1 ベラパン通信)

【経済】

●2020年12月、ミンスク市平均賃金先月対比、17%
増加。

(1/26 ベラパン通信)

●2020年1月～11月、EUとの貿易高、12%減。

(1/26 ベラパン通信)

●2020年1月～11月、産業企業の純利益、昨年同
期対比 40%減少。

(1/26 ベラパン通信)

●2020年1月～11月、産業企業の負債累積額、
2019年同期対比、20%増加。

(1/27 ベラパン通信)

●2020年1月～11月、サービス輸出高、2019年同
期対比、8.7%減、輸入高 16.8%減。

(1/27 ベラパン通信)

●2020年、アルコール販売高、2019年対比 2.1%増
加。

(1/28 ベラパン通信)

●2020年を通じてベラルーシ政府債務残高は130億
ルーブル(29%)増加して、2021年1月1日時点で
578億ルーブルに上り、GDP比 37.3%となった。

(1/29 ベラパン通信)

●2020年、ベラルーシ貿易高、2019年対比、15%減
少。

(1/31 ベラパン通信)

【抗議勢力側の動き】

●チハノフスカヤ元候補及び、アスタペンコ国家危機
対応局多方面外交担当が、英国王立防衛安全保障
研究所のオンライン行事に出席。

チハノフスカヤ氏の発言要旨は以下の通り。

・現政権による犯罪の調査や、特別警察や内務省組
織犯罪・汚職対策総局のテロ組織認定、ベラルーシ
国民に対する欧州製ワクチンの保証、新たな自由で
公正な選挙に関する対話への支援をお願いしたい。

アスタペンコ氏の発言要旨は以下の通り。

・非合法の政権による自国民に対する恐怖政治は止め
なければならない。「全ベラルーシ国民会議」は、ベラ
ルーシ国民の本物の声をすり替えるための覆いとし
て使われてしまう危険性がある。

(1/28 ベラパン通信)

●チハノフスカヤ元候補、オンライン形式のウクライ
ナ、ポーランド、リトアニア外相会談に出席。

チハノフスカヤ氏の発言要旨は以下の通り。

・ベラルーシから退去せざるを得なくなったベラルー
シ国民への支援に対し感謝申し上げる。

・ルカシェンコ含め、選挙の改ざんと国民への圧力に
関わる全ての者に対するより効果的な個別制裁の導
入をお願いしたい。また、ルカシェンコの財布とされる
ビジネスマンや企業に対する経済制裁による現政権
への圧力は効果的である。どうか、現政権への資金
提供をしないようお願いしたい。

(1/29 ベラパン通信)

(了)